

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年4月22日（木）

2 確認箇所

一時保管エリアW1

3 確認項目

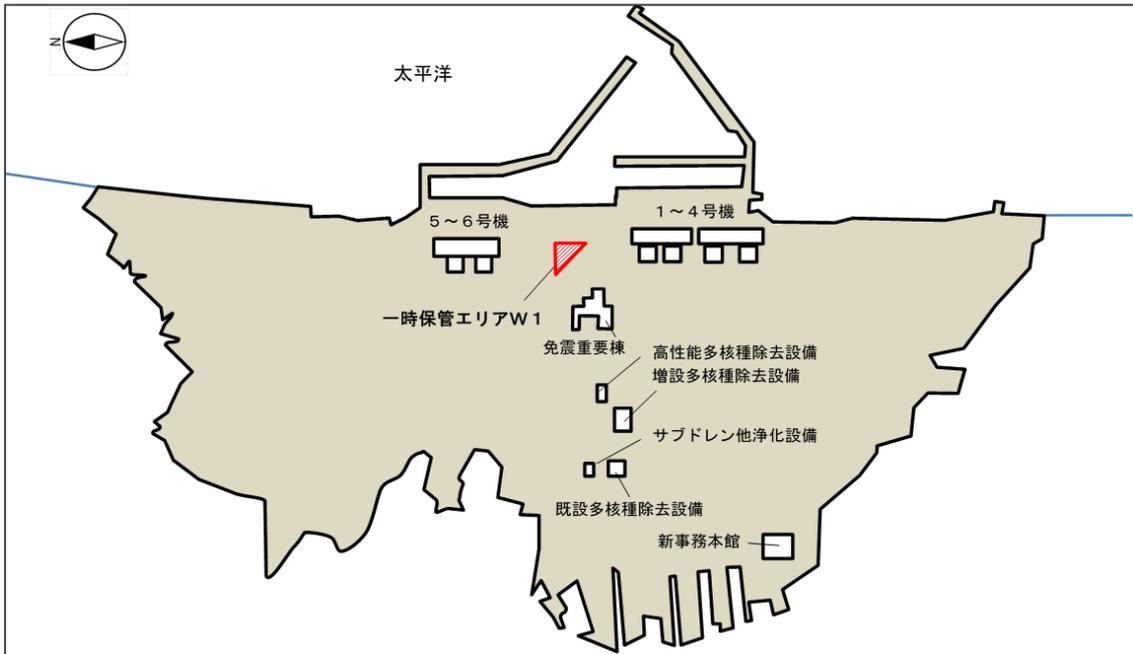
一時保管エリアW1における廃棄物の保管状況

4 確認結果の概要

福島第一原子力発電所構内において発生した瓦礫等は、敷地周辺への放射線の影響や作業員の被ばくを低減する観点から、瓦礫等の表面線量率や種類に応じた一時保管エリアにおいて管理が行われている。

構内には瓦礫等が収納されたコンテナが約8.5万基あり、そのうち、約0.4万基については震災直後に保管が開始されたコンテナであり、システムによる管理が行われていなかったことから、内容物の把握に時間を要する、若しくは困難な状況にある。なお、内容物の把握に時間を要する、若しくは困難な状況にあるコンテナ（以下「内容物不明コンテナ」という。）についても表面線量率を確認した上で一時保管エリアにて管理が行われているが、一時保管エリアW2で保管していたコンテナから内容物が漏えいした事象を踏まえて、東京電力が今後、外観点検や内容物の確認作業を予定していることから、内容物不明コンテナのうち、91基が保管されている一時保管エリアW1の状況を確認した。（図1）

- ・エリア出入口には単管パイプのバリケードが設置されており、関係者以外がみだりに立ち入りできない措置が講じられていた。また、エリア出入口には空間線量率の測定結果が掲示されていた。（写真1）
- ・今回、一時保管エリアW1に立ち入り、コンテナ等の外観を確認し、一部のコンテナの表面線量率を測定した。
- ・東京電力によれば、一時保管エリアW1には計1489基のコンテナが保管されている。現場では、一部のコンテナ表面は腐食や蓋の歪みが確認されたが、確認した範囲では内容物の流出は見られなかった。（写真2）
- ・一時保管エリアW1は表面線量率が1mSv/h以下のコンテナ等を保管するエリアであり、確認した範囲で1mSv/hを超えるコンテナ等は保管されていなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
一時保管エリアW1 出入口の状況
(エリア西側から撮影)



(写真2)
保管されているコンテナの一例
(エリア南東側から撮影)

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。